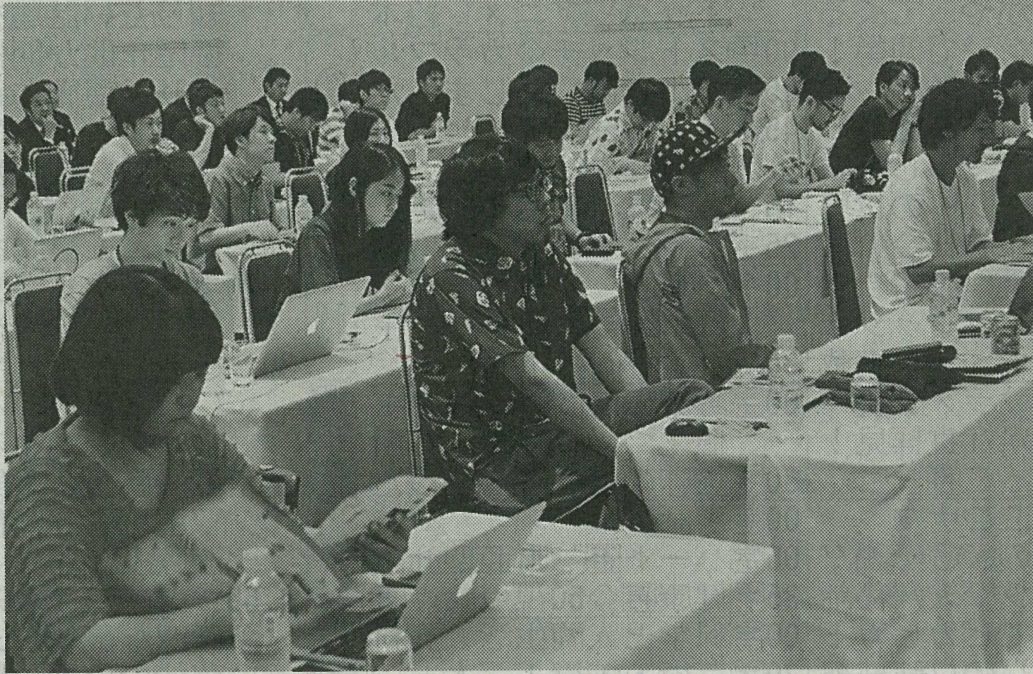


被災地の情報を全国に

インターネットクリエイター

南三陸で研修会

国内のインターネットクリエイターによる研修会がこのほど、南三陸町志津川のホテル観洋で開かれた。参加者たちは、志津川市街地の現状や今が旬のウニなどの写真をインターネットに投稿し、情報発信すると共に、



インターネットクリエイターの研修会

「被災地の記事を見ると落ち込む人も多いが、プラスの感情で記事を書いたことで多くの反響があった。東京では南三陸町を知らない人もいる。暗い話だけでなく、旬の食べ物やきれいな景色などを発信するだけでも復興の助けになる。被災地を訪れてツイートしてください」と呼び掛け

今後の支援を確認した。ツイッターなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）を利用して、若い世代に東日本大震災から復興している現状を、全国の人に知ってもらい、被災地支援につなげるのが狙い。研修会にはツイッターのフォロワー数が多く、情報発信力のあるインターネットクリエイターやライター、起業家など、東京や大阪、福岡から45人が参加した。

参加者のほとんどが被災地を訪れるのが初めてで、昼食のキラキラウニ丼や町の景観、語り部バスで町内を回った時の様子などを撮影した写真を早速ツイッターなどに投稿していた。

研修会は2日間わたって行われ、2日目には住民を対象にしたインターネットを使った情報発信講話が開かれ、塩谷さんが指導した。阿部おかみは「強い発信力のある皆さんが、南三陸の情報を送り続けてくれることが心強い。これからもライターとなって被災地の情報を全国に届けてほしい」と話している。

2017年7月6日(木)
三陸新報